第53歩

地球沸騰化

昨年７月、国連のアントニオ・グテーレス事務総長は「地球沸騰化の時代が到来した」と警鐘を鳴らしました。世界平均気温が観測史上最高記録を大幅に更新したことで、これまでの「地球温暖化」という生ぬるい表現では伝えきれない危機的な状況に地球が差し掛かっているということを言いたかったのでしょう。そんな危機感がどんどん現実味を帯びてきています。今年の夏も、めちゃくちゃに暑かった昨年をさらに上回るような酷暑が続いています。

科学的には、東太平洋赤道地域の海面温度の高低による「エルニーニョ現象」や「ラニーニャ現象」が世界的な異常気象をもたらしているとのことです。地球温暖化に加え、特に今年は、「ラニーニャ現象」の影響で、日本付近では、夏季は太平洋高気圧が北に張り出しやすくなり、気温が高くなる傾向があるのだそうです。

高松でも、梅雨明けした７月の第三週から８月にかけて、連日最高気温が35度を超える猛暑日が続き、最低気温も軒並み25度を超え、熱帯夜の寝苦しい日が続きました。また、毎日のように四国４県に「熱中症警戒アラート」が発せられ、熱中症の疑いで救急搬送される人がずいぶん多くなっているようです。

地球温暖化の問題は、都市の持続可能性にも関わる問題で、思い切った政策転換が必要だと言われてきました。ごみ処理や交通、地域エネルギー、吸収源としての緑化や森林、農業政策など、脱炭素の取り組みは自分たちのまちづくり施策とも直結するのです。昨年７月に行われたＧ７香川・高松都市大臣会合でも、脱炭素を意味する「ネット・ゼロ」が主要議題としてトップに取り上げられています。

そのような中、７月下旬、本市と本市の指定金融機関である百十四銀行との間で、「脱炭素社会の実現に向けた連携協力に関する協定」を締結しました。地球温暖化に対処するための脱炭素の取り組みも、結局は、地域の企業や市民の意識改革と行動変容に関わってくるものです。それを促すための地道な活動を、関係者で協力しながら進めてまいりたいと思います。